

インターバンクの声（2017 年 8 月 17 日）

北朝鮮情勢を巡っての緊張感の後退からリスク回避姿勢も緩み、円相場も 110 円台後半まで円売りが進んでいたが、7 月の米住宅着工件数や建設許可件数が市場予想を下回ったことで、一旦は円売りも止まったように見えた。

しかし、市場の反応はそれほど大きくなく、7 月の FOMC 議事要旨の内容次第ではもう一度円売りモードに戻るかと思われたが、その議事要旨の発表を待たずにトランプ米大統領の思わぬ決定発表がドルを大幅に押し下げてしまった。

米経済界の首脳らで構成する大統領助言組織の「製造業評議会」と「戦略・政策フォーラム」の解散を発表したためだ。

どうにか 110 円は割らずに済んでいたが、FOMC 議事要旨に利上げを先送りする可能性が示されていたことで、市場は再び円買い・ドル売りの流れに戻ったような気がする。

来週の米ジャクソンホールでの経済フォーラムに向けてオプションを組んでいる投資家も多いらしく、もう一度 109 円前後までドル売りが進むとインターバンクではドル売りが膨らむ可能性がある。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。